

〈看護学科〉

基礎看護学 1

教授：芳賀佐和子 基礎看護学 1
助教授：平尾真智子 基礎看護学 1
講師：菊池麻由美 基礎看護学 1

研究概要

I. 教育方法・評価に関する研究

1) 看護技術教育

基礎看護技術の教育に関して、デスポーザブルグリセリン浣腸液の内部温度の測定について、①放射温度計を用いて測定した場合、②中心温度と表面温度の差、の2点について研究を行った。

2) 医療事故防止教育の方法

実習前学生の「医療事故」に対する認識を授業前後の比較を通して明らかにした。

II. 看護診断に関する研究

看護診断のひとつの診断名である「急性疼痛」に関して、「急性疼痛」と診断された患者状況に対する看護師の臨床判断の適切性について看護記録からの事例分析を行い、また電子カルテシステムにNNNを導入している施設の看護記録の分析も行った。さらにNANDA看護診断「急性疼痛」に対して電子カルテシステムにNNNを導入している施設の看護記録の分析から抽出された看護成果と看護介入の適切性に関して研究を行った。

III. 看護歴史に関する研究

1) 日本看護歴史研究

① 高木兼寛の健康教育観について、大正期の臨時教育会議における小学校教育に関する発言内容から明らかにした。

② 慈恵の看護の歴史

- ・セント・トマス病院関係文書から日本で最初の看護婦留学生である慈恵の看護婦の実情について明らかにした。
- ・慈恵の看護を拓いたナースたちの活動内容を歴史的に明らかにした。
- ・教育所卒業生保良せきが発刊した戦前の看護専門雑誌『看護婦』の内容と発刊の意義を明らかにした。

③ 日本の占領期に発刊された看護系雑誌『保健婦事業』や九州で発刊された保健婦の雑誌のGHQによる検閲状況についてアメリカのメリーランド大学ブラング文庫に所蔵されている資料から明らかにした。

④ 江戸時代後期の町医者で看護に関する著作を著わした平野重誠の養生観について明らかにした。また彼の代表的著作である江戸時代の看護書『病家須知』を共同で現代語に訳し出版した。

2) ナイチンゲールに関する研究

19世紀のナイチンゲールの生涯をエッセンスで示し、今日において看護学生が簡便に学べるようにした。また慈恵の看護とナイチンゲールの関係を探究した。

「点検・評価」

それぞれが研究テーマをもち継続的に研究する一方で、基礎看護学領域として看護基礎教育課程での「フィジカルアセスメント能力の育成」に関しては研究を継続しているが今年度は発表にはいたらなかった。また昨年度に継続し「医療事故防止」教育のための研究を行った。今後も教育方法については、さらにテーマを広げ継続し協力しながら研究を進めていきたい。また看護学の発展や方向性に関する示唆を得るための看護歴史研究や本学のスクールミッションにも関係する慈恵の看護歴史研究も継続していきたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 大石杉乃, 喜多加奈子, 平尾真智子, 芳賀佐和子, プラング文庫の分析より明らかになった日本看護協会機関誌『看護』の発刊事情. 日看歴史会誌 2006; (19): 18-23.
- 2) 斎藤紋子, 黒田裕子, 棚橋康之, 柳谷博幸, 菊池麻由美, 津田泰伸, 後藤陽子, 下舞紀美代, 原田竜三. “急性疼痛”と診断された患者状況に対する看護師の臨床判断の適切性に関する質的追及—看護記録からの事例分析. 看診断 2007; 12(1): 14-26.

III. 学会発表

- 1) 蝦名総子, 平尾真智子, 芳賀佐和子, 高木兼寛の健康教育観に関する研究—臨時教育会議での小学校教育

に関する発言内容から、第 107 回日本医史学会、中津、4 月。[日医史誌 2006；52(1)：62-3]

- 2) 中村節子，平尾真智子，平野重誠『養生訣』(1835)にみる実践的医療者の養生観。第 107 回日本医史学会、中津、4 月。[日医史誌 2006；52(1)：120-1]
- 3) 大石杉乃，喜多加奈子，平尾真智子，芳賀佐和子。占領期の医療・看護に関する出版物の検閲 (2) 九州で発刊された保健婦の雑誌。第 107 回日本医史学会、中津、4 月。[日医史誌 2006；52(1)：54-5]
- 4) 津田泰伸，黒田裕子，棚橋康之，斎藤紋子，柳谷博幸，杉田里絵，潮田孝子，原田竜三，菊池麻由美，香取輝美，依田安代，中野由美子，後藤陽子，高橋美穂。NANDA 看護診断“急性疼痛”に対して抽出された看護成果と看護介入の適切性に関する研究—電子カルテシステムに NNN を導入している施設の看護記録の分析。第 12 回看護診断学会。名古屋，6 月。[看護診断 2006；11(2)：182-3]
- 5) 斎藤紋子，黒田裕子，棚橋博幸，津田泰伸，杉田里絵，潮田孝子，原田竜三，菊池麻由美，香取輝美，依田安代，中野由美子，後藤陽子，高橋美穂。NANDA 看護診断“急性疼痛”の適切性に関する研究—電子カルテシステムに NNN を導入している施設の看護記録の分析。第 12 回看護診断学会。名古屋，6 月。[看護診断 2006；11(2)：180-1]
- 6) 菊池麻由美，羽入千悦子，喜多加奈子，平尾真智子，芳賀佐和子。実習前学生の「医療事故」に対する認識—授業前後の比較を通して。第 16 回日本看護学教育学会。名古屋，8 月。[日看教会 16 回講集 2006：154]
- 7) 藤野彰子，櫻井美代子，羽入千悦子，深谷智恵子。授業改善に向けた学生による全科目の評価。第 16 回日本看護学教育学会学術集会。名古屋，8 月。[日看教会 16 回講集 2006：88]
- 8) 喜多加奈子，菊池麻由美，羽入千悦子，平尾真智子，芳賀佐和子。デスポーザブルグリセリン浣腸液の温度測定 (1)放射温度計を用いて。第 5 回日本看護技術学会。岡山，11 月。[日看技会 5 回講録集 2006：101]
- 9) 菊池麻由美，羽入千悦子，喜多加奈子，平尾真智子，芳賀佐和子。デスポーザブルグリセリン浣腸液の温度測定 (その 2) 中心温度と表面温度の差。第 5 回日本看護技術学会。岡山，11 月。[日看技会 5 回講録集 2006：102]
- 10) 平尾真智子，芳賀佐和子。保良せきが戦前期に刊行した看護専門雑誌『看護婦』の内容とその意義。第 26 回日本看護科学学会学術集会。神戸，12 月。[第 26 回日看科学会講集 2006；128]
- 11) 大石杉乃，平尾真智子，芳賀佐和子。雑誌『保健婦事業』の実態 (2)—メリーランド大学プランゲ文庫調査から。第 26 回日本看護科学学会学術集会講演集。神戸，12 月。[第 26 回日看科学会講集 2006：128]

基礎看護学 2

助教授：大石 杉乃

研究概要

I. 看護情報管理学に関する研究

医療・看護・看護教育の実態，地域における医療・看護の需給関係や地域の特性などの情報に関するデータ・ベースを作成し，内容を毎年更新している。看護・看護教育の実態の経年的変化や各要因との関連を継続的に分析している。研究の目的は，将来の看護教育や看護制度のあるべき姿を予測することである。本校の教育においては，「情報科学」の講義の中で，研究方法と成果を紹介した。

II. ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵検閲史料の分析による占領下日本の医療・看護の状況と GHQ による検閲の実情に関する研究

米国メリーランド大学図書館ゴードン・W・プランゲ文庫 (以下，プランゲ文庫) には占領下日本において 1945 年から 1949 年に出版された刊行物のすべてとその検閲記録が所蔵されているとされているが，実際にはすべてが所蔵されているわけではない。本研究の目的は GHQ 文書 (GHQ/SCAP Records) の公衆衛生福祉局に関する記録 (PH&W Records) からは評価出来なかった，医療および看護に関する GHQ の方針と実態を明らかにするとともに，当時の日本における医療・看護関係書物の発刊状況を明らかにすることである。この研究は，2004 年から 2007 年の文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) を得ている。プランゲ文庫の史料を分析した結果，日本看護協会機関誌「看護」については，GHQ 公衆衛生福祉局看護課は，GHQ 参謀第 2 部民間検閲支隊に先だって検閲を行っていたことが明らかになった。

III. 第二次世界大戦後の看護改革に関する研究

現在の看護の法律や教育制度の基礎は，連合国軍最高司令官総司令部 (GHQ) 看護課により，占領下に築かれた。しかし，わが国の実情などに応じて様々な改変が行われている。GHQ が行った看護の変革が現在までどのように変遷してきたかを，社会的な要因，アメリカの国立公文書館や日本の国会図書館などで収集した史料，GHQ 関係者からのインタビューや書簡などの情報にもとづいて分析している。研究の目的は，GHQ が理想とした看護の理想像

と日本の実情とに乖離が生じた要因, GHQ と日本側関係者がこれらの問題をどのように解決していったかを明らかにすることである。本校の教育においては、「看護管理」の講義の中で、研究方法と成果を紹介した。

「点検・評価」

看護情報管理学に関しては、常に情報を更新し、研究を継続している。また、看護および看護教育の実態分析と、歴史研究により、看護管理に関する情報の収集分析を継続している。

講義において、これらの研究方法と成果を紹介し、学生に看護研究の必要性を伝えとともに看護研究に対する興味を喚起するように努力している。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) 大石杉乃, 喜多加奈子, 平尾真智子, 芳賀佐和子, プランゲ文庫の分析より明らかになった日本看護協会機関誌『看護』の発刊事情. 日看歴史会誌 2006; 19: 18-23.
- 2) 大石杉乃, 喜多加奈子, 平尾真智子, 芳賀佐和子. 占領期の医療・看護に関する出版物の検閲 (2): 九州で発行された保健婦の雑誌. 日医史誌 2006; 52: 54-5.

III. 学会発表

- 1) 大石杉乃, 喜多加奈子, 芳賀佐和子. 雑誌『保健婦事業』の実態 (2): メリーランド大学プランゲ文庫調査から. 第 26 回日本看護科学学会学術集会. 神戸, 12 月. [日看科学会講集 2006; 26: 129]

V. その他

- 1) 大石杉乃. アメリカで看護を実践してきた住吉蝶子が伝えたい看護. 看教 2006; 47(11): 1012-9.

成 人 看 護 学

教 授: 深谷智恵子

助教授: 藤野 彰子

講 師: 北山 幸枝

研 究 概 要

I. 成人看護学看護技術習得に関する研究

成人看護学では看護実習における学生の看護技術の習得状況について研究している。看護技術の習得程度は高く他大学と比較しても高得点となっている。これは、少人数の学生数であること、看護の実践者を育成することを目的としたスクールミッショ

ンを具体化しようとした教員の努力の結果である。この成果は日本看護学教育学会第 17 回学術集会で発表する予定である。

II. クリティカルケアにおける看護師の倫理的問題に関する研究

深谷は、クリティカルケアにおける看護師の倫理的葛藤に関する研究をしている。倫理的葛藤の種類、生じやすい状況、場面についてデータ収集の準備をしている。

III. ケアリングタッチの研究

藤野は終末期がん患者の苦痛の緩和方法としてのタッチについて研究を継続している。ホスピス看護師とがん疼痛認定看護師に面接調査を行い修正版グランデッドセオリーの技法を使い結果の整理をした。その結果、患者の苦痛に共感し、ここを込めて行うケアリングタッチが、有効であることがわかった。

IV. 創傷看護に関する研究

北山は、創傷・スキンケア看護を専門とし、さまざまな創傷や皮膚障害(褥瘡をはじめとする創傷, 下腿潰瘍, ストーマ, 失禁など) のアセスメントや予防, 看護介入について, 褥瘡回診やストーマ外来におけるフィールドワークを行い, 研究を継続している。

「点検・評価」

看護実習における技術の習得は重要な課題であり, 成人看護の領域は基本的技術の習得に適した場所でもある。看護実習における看護技術の習得については継続して研究し, できるだけたくさんの技術を体験させ自信を持って臨床にでていけるような教育をしたい。

各教員は自分のテーマに沿って着実に研究を進めている。いますこし研究に集中できる時間を確保できると急速に成果が現れると思われる。

研 究 業 績

III. 学会発表

- 1) 横井咲子, 井上智子. 高齢冠動脈バイパス術患者の手術決断と看護支援に関する研究. 第 3 回日本クリティカルケア看護学会. 東京, 6 月. [日クリティカルケア看会誌 2006; 2(1): 72]
- 2) 藤野彰子, 櫻井美代子, 羽入千悦子, 深谷智恵子. 授業改善に向けた学生による全科目の授業評価. 第 16 回

日本看護学教育学会, 名古屋, 8月. [日看教会誌 2006; 16: 88]

- 3) 原武麻里, 藤野彰子, 深谷智恵子. 臨地実習における看護技術到達度の検討. 第16回日本看護学教育学会, 名古屋, 8月. [日看教会誌 2006; 16: 173]

V. その他

- 1) 藤野彰子. 終末期がん看護に携わる看護師の用いる「タッチ」について. 保健の科学 2006; 48(7): 509-14.
- 2) 藤野彰子. ケアに活かすタッチー看護実践におけるケアリングとタッチ①. 臨看 2006; 32(8): 1350-5.
- 3) 藤野彰子. ケアに活かすタッチー看護実践におけるケアリングとタッチ②. 臨看 2006; 32(9): 1505-10.
- 4) 藤野彰子. ケアに活かすタッチータッチの方法と熟練の技. 臨看 2006; 32(10): 1641-7.
- 5) 藤野彰子. ケアに活かすタッチー患者側から見たタッチの効果. 臨看 2006; 32(11): 2011-7.
- 6) 藤野彰子. ケアに活かすタッチー男性看護師のタッチの特徴から学ぶ効果的なタッチ. 臨看 2006; 32(12): 2147-52.

老 年 看 護 学

教 授: 櫻井 美代子 老年看護学

助教授: 伊達 久美子 老年看護学

研 究 概 要

老年看護学領域では, あらゆる健康レベルにある高齢者とその家族のニーズに応じた看護を提供するための研究を行っている。

I. 認知症高齢者家族の介護疲労に関する研究

櫻井は, 認知症高齢者を自宅で介護している家族の心身の疲労について研究を継続している。本年度は親を施設へ入所させるに至った家族が, どのような心理的葛藤を抱えているのかに着目して聞き取り調査をしている。

II. 地域高齢者の生活習慣と健康に関する研究

伊達は, 高齢者の日常生活習慣と健康との関連, 健康行動の変容および看護介入に関する研究を継続しており, 本年度は高齢者の健康維持増進を目的として, 主に運動を中心としたプログラム提供システムを, ITを活用して試作した。さらにこのシステムの有用性を判定するために, 健康づくりプログラムに参加した高齢者を対象に検証中である。

「点検・評価」

教育面では教員の補充によって老年看護学の学内実習および臨地実習の内容検討を行うことが出来た。

研究面では, 昨年度の高齢者の口腔衛生状態と生活満足度に関するデータをまとめたが論文発表に至らなかった。現在投稿に向けて論文作成中である。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) 志田かおり¹⁾, 依田有美子¹⁾, 高橋博子¹⁾, 斉藤 幸¹⁾, 石川みゆき¹⁾ (山梨大学病院), 伊達久美子. 周手術期看護における肺理学療法に対する看護師の実践状況と認識. 山梨大看会誌 2007; 5(2): 25-9.
- 2) 名取佐知子¹⁾, 宮澤一恵¹⁾, 辻加永子¹⁾, 長崎ひとみ¹⁾, 望月恵美¹⁾, 伏見ます美¹⁾ (山梨大学病院), 伊達久美子. 喉頭摘出術を受けた患者の日常生活上の困難さに対処方法: 患者と家族の比較. 山梨大看会誌 2006; 5(1): 49-55.
- 3) 宮本知子 (甲府市保健センター), 伊達久美子, 飯島純夫 (山梨大学). 市町村保健師の乳幼児健康診査における養育問題把握方法と内容. 小児保健研 2006; 65(2): 322-30.

III. 学会発表

- 1) 藤野彰子, 櫻井美代子, 羽入千悦子, 深谷知恵子. 授業改善に向けた学生による全科目授業評価. 第16回日本看護学教育学会, 名古屋, 8月.
- 2) 宮本知子, 伊達久美子, 武藤志真子, 飯島純夫. BMIの変化と動脈硬化危険因子の関係: 10年間の健診結果の分析から. 第64回日本公衆衛生学会, 札幌, 8月.

IV. 著 書

- 1) 伊達久美子. 看護におけるコミュニケーションの意義: 看護の対象. 福沢周亮, 桜井俊子編著. 看護コミュニケーション: 基礎知識と実際. 東京: 教育出版, 2006. p. 97-9.
- 2) 伊達久美子. 看護コミュニケーションの主要素: 傍らに在ること. 福沢周亮, 桜井俊子編著. 看護コミュニケーション: 基礎知識と実際. 東京: 教育出版, 2006. p. 146-7.
- 3) 伊達久美子. 看護コミュニケーションの展開: 入院時の対応. 福沢周亮, 桜井俊子編著. 看護コミュニケーション: 基礎知識と実際. 東京: 教育出版, 2006. p. 148-51.

精神看護学

教授：池邊 敏子

講師：林 世津子

研究概要

精神看護学領域では、地域で暮らす精神障害者への援助内容に関する研究を行ってきた。今回は、グループホーム入居者の一人暮らしの困難さ、外来通院を継続している患者への支援内容を検討し発表してきた。また、メンタルヘルス上の問題をもつ看護学生に関わる教員の葛藤の様相を明らかにし、葛藤解決の示唆を得た。

さらに、精神科個室病棟における看護や看護行為のインフォームド・コンセントに焦点を当て、面接調査を行っている。

「点検・評価」

教員の異動に伴い、精神看護学領域の研究課題の範囲が、地域から病院・教育へと拡大した。その内容充実と共に、精神看護学教育方法の検討にも取り組んでいきたい。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 林世津子, 柴田真紀(北里大学). メンタルヘルス上の問題をもつ看護学生に関わる教員の葛藤—看護専門学校教員の面接調査から—, 日看研会誌 2006; 29(5): 49-57.

III. 学会発表

- 1) 池邊敏子, 林世津子, 寺岡貴子, 内田恵美子¹⁾(社会福祉法人恵友会), 荒木幸子. グループホーム入居者が認知する一人暮らしの困難さの検討, 第14回日本精神障害者リハビリテーション学会, 富山, 11月.
- 2) 吉野久美子¹⁾, 山内美代子¹⁾, 有馬まり¹⁾, 外部里美¹⁾, 古川八重子¹⁾(緑峰会養南病院), 寺岡 貴, 池邊敏子. 精神科看護支援室の2年間の利用実態からみた役割の検討, 第49回日本病院・地域精神医学会総会, 東京, 10月.
- 3) 吉野久美子¹⁾, 山内美代子¹⁾, 有馬まり¹⁾, 外部里美¹⁾, 古川八重子¹⁾(緑峰会養南病院), 林世津子, 池邊敏子. 看護支援室の経時的利用目的からみた役割の検討, 第34回日本精神科病院協会精神医学会, 津, 11月.

小児看護学

教授：濱中 喜代

講師：長 佳代

研究概要

I. 小児看護領域における基礎教育の現状と課題

昨年度の『子どもの死』の教育に対する質問紙調査を受けて、今年度は教育を丁寧に行っている3年課程看護師養成校5校に協力を得て、インタビューによる踏査研究を行った。その結果、看護教育への具体的な示唆を得たので、今後学会等で発表し共有を図りたい。

II. 小児看護領域における卒後教育の現状と課題

昨年度行った師長に対する半構成的な面接調査を分析した結果、実習時間の減少による影響や小児看護の特殊性が新人教育の困難さの一要因になっていることが明らかになったことを学会に報告した。

III. 子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築に関する研究

今年度は文部科学省の科学研究費による多施設での共同研究に着手した。外来看護における基礎教育の現状と課題について明らかにする目的で看護基礎教育期間(全国の看護系大学)への調査および医療機関(全国の診療所, 総合病院, 小児専門病院)への調査を行った。また海外視察として、英国の大学2箇所および子ども病院等4箇所の見学・意見交換を通して、子どものヘルスプロモーション支援のための基礎教育と実践の連携について検討した。

IV. 小児慢性腎不全患者の社会的成長過程の実態と情報提供による支援策の構築

長は、小児慢性腎不全患者が社会的成長の過程で直面する問題と対処のありようをあきらかにし、患児・家族へのよりよい支援体制構築のための基礎的知識とするとともに、学校生活や進学就職に関する患児・家族の体験と情報をまとめた患児・家族向け小冊子の作成を行うことを目的として、患児へのインタビュー調査を行った。

「点検・評価」

I・IIにおいて基礎教育・卒後教育のあり方について、その連動も含めて継続的に研究をすすめており、

一定の成果が得られてきている。今後、本学も含め小児看護領域の教育にいかしていきたい。また新たに着手した III の研究は 4 年計画であり、外来看護実習の位置付けの明確化や外来看護のモデル構築に向けて、継続的に取り組んでいきたい。

研究業績

III. 学会発表

- 1) 濱中喜代, 花澤雪子. 小児看護領域における『子どもの死』に関する基礎教育の現状と課題. 日本小児看護学会第 16 回学術集会. 横浜, 7 月.
- 2) 濱中喜代. 小児看護学領域における新人教育の現状と課題—東京近郊の私立大学病院の師長へのインタビュー調査から—. 日本小児看護学会第 16 回学術集会. 横浜, 7 月.

IV. 著書

- 1) 長 佳代. 慢性腎疾患の概説. 伊藤龍子, 及川郁子編. 新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患療養育成指導マニュアル. 東京: 診断と治療社, 2006. p. 78-86.

母性看護学

教授: 茅島 江子

助教授: 島田真理恵

研究概要

女性のライフサイクル各時期における様々な健康問題について研究し、看護援助のあり方について考察した。

I. 産後乳房相談の利用と産後 1ヶ月時の母乳栄養率への効果

産後 1ヶ月までの女性 138 名を対象に、産後乳房相談室の利用と母乳栄養率を調査した。その結果、産後乳房相談室の利用率は 52.2% で、経産婦よりも初産婦の利用率が高く、初産婦では、産後乳房相談室を利用しなかった人は利用した人よりも母乳栄養率が低いことを認めた。また、Light-for-dates 児では、母乳栄養から混合栄養にする者が多かった。

II. 母乳育児に関する研究の動向—過去 5 年間の国内文献の分析

厚労省の「健やか親子 21」の国民運動計画の中で、母乳育児推進が挙げられているが、母乳栄養率を上昇させるまでには至っていない。そこで、日本の過

去 5 年間の母乳育児に関する研究 53 文献について文献検討を行い、今後の研究・実践の指針および課題を探った。

その結果、臨床実践に基づいた実態調査研究が行われており、特に分娩後から 1ヶ月健診までに行う継続フォローに関する研究が行われていた。研究内容としては、「母乳育児を継続するためのケア要因」と「母乳育児確立阻害要因」に大別できた。

「点検・評価」

1. 母乳栄養確立に向けて、特に初産婦の場合、産後乳房相談室の役割は大きく、児の特徴を踏まえた援助が必要であることがわかった。今後は、継続的、個別的な特性を踏まえた母乳栄養確立に向けての援助について、検討していく必要がある。

2. 母乳育児に関する研究は、分娩後から退院後 1 か月以内に焦点が絞られており、今後は、母乳不足感などの育児不安を含め、妊娠中からの継続したフォローや、評価研究、母乳栄養率上昇のための介入研究などに発展させていく必要がある。

研究業績

III. 学会発表

- 1) 橋本千佳, 田中佳子, 松本光子, 菱田清子, 伊藤有紀, 島田真理恵, 茅島江子. 産後乳房相談の利用と産後 1ヶ月時の母乳栄養率への効果. 第 47 回日本母性衛生学会. 名古屋, 11 月. [母性衛生 2006; 47(3): 218]
- 2) 島田真理恵, 伊藤有紀, 茅島江子. 慈恵大学における助産師教育に関するニーズの検討—学生への質問紙調査, 看護部へのヒアリングから—. 第 3 回慈恵看護研究会. 東京, 3 月. [第 3 回慈恵看護研究会講演集 2007; 39]
- 3) 池田千賀子, 喜多加奈子, 原武麻里, 春日広美, 平尾真智子, 濱中喜代, 茅島江子. 臨地実習における形成評価と今後の課題 (その 2) 第 3 回慈恵看護研究会. 東京, 3 月. [第 3 回慈恵看護研究会講演集 2007; 44]
- 4) 伊藤有紀, 島田真理恵, 茅島江子. 母乳育児に関する研究の動向—過去 5 年間の国内文献の分析—. 第 21 回日本助産学会. 宮崎, 3 月.

V. その他

- 1) 島田真理恵, 伊藤有紀, 茅島江子. 慈恵大学における助産師教育に関するニーズの検討. 平成 18 年度看護学科研究報告書 2007; 44-53.
- 2) 茅島江子. 今, 思春期を問い直す「社会化を支援する対策を」. 思春期学 2007; 25(1): 191.

地 域 看 護 学

教 授：奥山 則子 地域看護学
助教授：島田 美喜 地域看護学
助 手：清水由美子 地域看護学

研 究 概 要

I. 地域看護教育に関して

1. 地域看護学教育に関する研究

地域看護学の教育方法や教育効果について研究し、学生が学習しやすいテキストや教材などの開発をした。また、教育のありかた、実習や履修時期などについて研究している。

2. 地域保健活動の実践研究

地域保健活動の実践について、① 高齢者の介護予防、② 生活習慣病予防と地区組織活動について、③ 地域におけるターミナルケアについてなどの調査・実践研究をしている。

「点検・評価」

学生の履修時期と教育効果について 29 大学を対象に共同研究調査を実施し、その結果を 12 月の看護科学学会で報告した。地域看護学は履修時期が遅い学生の方が理解度は高いことや、地域看護学は他の科目に比べて「曖昧」、「難しい」、「応用領域」と考えていることが明らかになった。今後も学生の教育を効果的に実施するために研究を継続していく予定である。

地域保健の実践的な研究として健康推進委員の組織的な活動と健康への効果の分析や地域における終末期の支援システムについて調査研究中であり、今後も継続して研究を重ねそれぞれの効果やあり方について明らかにしていく予定である。

研 究 業 績

II. 総 説

- 1) 宮崎美砂子, 柴田則子, 海法澄子, 浅野純子, 川又協子, 荒賀直子, 奥山則子, 佐伯和子, 平山朝子, 村田昌子, 平沢敏子. 保健師学生に対する臨地実習指導の現状報告と大学・実習施設の協働に向けた課題. 保健師ジャーナル 2006; 62(5): 394-401.
- 2) 荒賀直子, 後閑容子, 標美奈子, 鈴木るり子, 吾郷美奈恵, 稲垣絹代, 奥山則子, 柴田真理子, 名原寿子, 安原裕子. 保健師教育機関協議会が作成した保健師教育課程試案. 保健師ジャーナル 2006; 62(7): 558-63.

III. 学会発表

- 1) 木下由美子, 吉岡洋治, 清水由美子, 奥山則子. 大学における地域看護学履修時期に関する調査研究. 第 26 回日本看護科学学会. 神戸, 12 月.

IV. 著 書

- 1) 奥山則子. II. 在宅看護実践論: 2. 在宅看護の方法論: 1. 理論. 木下由美子編. Essentials 在宅看護学. 東京: 医歯薬出版, 2007. p. 51-65.

V. その他

- 1) 平野かよ子¹⁾, 井下 理 (慶應義塾大学), 渡戸一郎 (明星大学), 守山正樹 (福岡大学), 末永カツ子 (東北大学), 山田和子 (和歌山県立医科大学), 島田美喜, 鳩野洋子¹⁾, 奥田博子¹⁾, 福島富士子¹⁾, 中板育美¹⁾, 米澤洋美¹⁾ (国立保健医療科学院). 市町村合併に伴う住民参加型の日常生活圏域の設定と保健福祉サービスの提供体制のあり方に関する研究: 平成 16 年度~18 年度総合研究報告書: 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業. 2007.